

効率化の取り組み事例

【事例②：現地溶接技術の適用】

- 火力発電所では、経年化によって設備にき裂が生じて溶接補修を行う場合がありますが、タービンケーシング※などの大型設備の場合、溶接箇所が全体のごく一部であっても、メーカー工場へ持ち込む必要がありました。 ※ タービンを覆う鋼鉄製の容器
- そこで、現地での溶接作業を可能とする工法(改良型テンパービード法)を採用し、工事費用の低減と工期短縮に努めています。
- また、「改良型テンパービード法」のさらなる適用拡大に向けて検討を進めています。

＜改良型テンパービード法による溶接補修状況＞

